

日時:令和4年 10月 24日(月)14:00~15:30

場所:大阪府立東住吉総合高等学校TRYルーム

1. 開会

2. 学校長挨拶

3. 出席委員紹介 : 田村 孝 委員(会長)、岡本 英三 委員、東 春年 委員、宮崎 日和 委員 計4名

4. 協議

(1)保護者からの意見書提出状況について : 特になし

(2)授業改善に向けて

授業改善に向けてのこれまでの取組について:教頭から説明

- ・平成 26 年度から平成 29 年度にかけて、大阪府教育センター主催の『パッケージ研修』を実施。前年よりステップアップした研修により、多くの教員にとっても、授業改善のきっかけとなった。
- ・平成 30 年度は『パッケージ研修』は行っていないが、『授業改善プロジェクトチーム』において若い先生を中心に授業改善について検討を重ねた。
- ・令和元年度は「確かな学力の育成」と「主体的・対話的で深い学び」の実現のために「魅力ある授業づくり」をめざした「パッケージ研修支援Ⅰ」を実施。各教員が持っている授業に対する課題や困っていることなどについて意見交換をし、各教科での取り組みについて協議を行った。
- ・令和2年度は学力向上プロジェクトチーム(GPT)の教員を中心に授業改善、学力向上をめざし、「授業研究プロジェクトチーム」「ICT機器活用研究プロジェクトチーム」「放課後学習プロジェクトチーム」の3つのチームに分かれて校内研修の企画と運営について協議を行った。
- ・令和3年度は、学力向上プロジェクトチームのメンバーを中心に、授業力改善、学力向上をめざし、教職員のニーズに応じた校内研修を企画・運営し、教職員の授業改善を図った。また、観点別学習状況評価をとり入れた授業づくりや評価方法の実践・検証を行った。そして、教頭、首席、各年次の代表者を中心に、オンライン学習に向けた校内のあらゆる準備、取り組みを行い、生徒一人一台端末の円滑な利活用に向けて準備を行った。
- ・今年度は、学力向上プロジェクトチームを中心に今年度入学生より実施された観点別学習状況評価を取り入れた授業や評価方法の検証を行った。また、教職員のニーズに応じた校内研修を企画・運営し、教職員の授業改善及び生徒の学力向上を図っていく。オンライン授業委員会では、委員会のメンバーを中心に、生徒の学力向上のため各教員間で情報共有を行った。とりわけ今年度は、各教員へクロムブックが配布されるので、より生徒の学力向上のための効果的な活用が期待される。10月13日に生徒を自宅待機させ臨時休業時のオンライン授業に備えて課題の送受信・質疑応答の確認をした。

5. 報告 : 生徒個人票の紛失について

6. 授業見学

時限	科目	担当者	場所
6限	機械実習3	福田、堤、藤本	機械工場
6限	書道I 1-5, 6	和田	書道室
6限	リーディング	横田	3-2

<授業見学を終えて 委員より>

- ・全体的に取り組む姿勢が前向きだった。うつむいている生徒はいなかった。
- ・教員と生徒の熱心な取り組みがよかった。
- ・他の教室で行っていたディベートも見学したかった。
- ・先生の飽きさせない努力を感じた。
- ・現代は、時代の動きが早く大変である。会社のPRにも動画を作る必要がある。そういう時代なので、会社も同様だが、教員の真価が問われる。
- ・6限目であるのに集中力を持続させている。
- ・総合学科ならではの多様性が活かされている。
  
- ・コンピュータ化・機械化が進む中で手作業の大切さを感じた。(機械実習)
- ・実習を行っている工場の見学がよかった。(機械実習)
- ・今は、全部コンピュータ化されているが、本物になるためには、手作りの基礎が必要。(機械実習)
- ・文書の意味や考え方も学んでいた。(書道)
- ・全員で取り組んでいて、しんどくて取り組まない生徒がいなかった。(書道)
- ・生徒が起立して音読した意図 ⇒ 場面展開を取り入れている。アクティブな発声が習慣化されている。(英語)
- ・国連スピーチを授業に取り入れて、最後に実際の映像を見せていたことが、大変良かった。(英語)
- ・国連スピーチを取り上げ大変良かったが、ビデオは、英語で流して日本語字幕をつける方法が効果的でないか。(英語)
- ・環境問題を考える教科横断的な取り組みがよかった。(英語)

<各先生方が授業で心掛けていること>

- ・全自動の世の中だが、手仕上げにこだわる。社会に出た時に通用する。
- ・実習前の点呼等は、働くときに役立つように、働く心構えをきっちり伝えている。
- ・50分の中でメリハリをつけて、引き出しを設けて面白い授業を心掛けている。
- ・教員同士で話をしている。教科横断的な授業を意識している。
- ・「羅生門」では、日本史的な当時の様子や時代背景を取り入れている。
- ・授業を今後の人生で役立たせることを考えている。
- ・総合学科なので、いろいろなクラスや選択の生徒がいて変化があり、刺激を受ける良さを生かしている。
- ・芸術は、正解も不正解もないものや、自分で計画して最終的に成果物を評価・鑑賞しようという、現代の社会に近いことを意識している。

## 7. その他

- (1) 第3回協議会開催日程について ⇒ 2月中旬を予定している。
- (2) 創立60周年記念事業について ⇒ 式典は行わずに記念誌を作成する予定。委員の方にも原稿依頼を送付する。

## 8. 学校長より

- ・先生方は50分の授業をメリハリつけて思考が活性化するように工夫をしている。
- ・総合学科の講座はHRクラスが解体されるのでいろいろな生徒と出会う。その多様性が東総の文化を作っている。
- ・現在一人ひとりに応じた「学びの転換」が求められている。引き続き生徒に寄り添った「学び」を追及してゆきたい。

## 9. 閉会